

栃木県立真岡北陵高等学校介護福祉科の存続を求める意見書

栃木県立真岡北陵高等学校介護福祉科の存続を求める意見書を別紙のとおり提出する。

令和5年9月4日

提出者

真岡市議会議員 大 瀧 和 弘

同 日下田 喜 義

同 中 村 和 彦

同 渡 邊 隆

同 久保田 武

栃木県立真岡北陵高等学校介護福祉科の存続を求める意見書

超高齢社会の更なる進展に伴い、介護ニーズが急増する一方、介護を担う人材確保については、少子化の影響により厳しさを増し、慢性的な人材不足に陥っているなど、その対策は喫緊の課題となっています。

栃木県高齢者支援計画「はつらつプラン21（八期計画）」では、2025年までに約8,900人の介護人材が新たに必要と見込まれており、多様な人材の確保・定着に向けて、介護人材参入促進事業や介護人材資質向上事業、介護労働環境・処遇改善事業など、国・県・市町が連携して、総合的・計画的な介護人材確保対策に取り組んでいるところであります。

このような中、栃木県立真岡北陵高等学校介護福祉科は、県央地域唯一の福祉系高校であり、介護福祉士国家試験の受験資格を取得できる学科として、毎年多くの介護福祉士国家試験の合格者を輩出しているところであります。

また、本市内の介護サービス提供事業所に数多くの生徒が就労されるなど、本地域における介護人材の育成・確保に多大な貢献を果たしていただいているところであります。

しかしながら、第三期県立高等学校再編計画（第三期県立高等学校再編前期実行計画）案においては、同校介護福祉科が令和8年度に募集を停止することが示されており、時代の要請と逆行する事態に、市民をはじめ地域の介護・福祉関係者は大きな不安を感じる状況となっております。

つきましては、同校介護福祉科が果たしている地域における役割と地域の期待、そして、介護人材不足の深刻な状況などを勘案いただき、引き続き存続させることを、強く要望いたします。

また、真岡北陵高等学校と真岡工業高等学校の統合に係る、新校の校地の決定にあたっては、地域住民や関係自治体の意見を踏まえて調整を行い、検討することを強く要望いたします。


以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和5年9月4日

栃木県真岡市議会

請 願 文 書 表

令和5年第4回真岡市議会定例会

受付 番号	請 願 件 名	請 願 者	受 理 年 月 日
	請 願 要 旨		付 託 委 員 会
請 願 第 2 号	真岡駅子ども広場の改善を求める請願	 (紹介議員) 飯塚 正 議員	令和5年 8月18日
	<p>現在少子化が進む中で、子育ての重要性が注目されています。真岡市では、若い世代・子育て応援プロジェクトが重要な施策として進められてきました。</p> <p>真岡駅子ども広場は約4年前に設けられ、これまで多くの市民に利用されてきました。</p> <p>今後は新たな施設が建設され、支援センターや図書館、地域交流センターが入る複合交流施設として予定されていますが、それまでの間も、子どもたちが安心して楽しく遊べる広場として、現在の真岡駅子ども広場を改善する必要があります。</p> <p>真岡駅子ども広場で子どもたちが安心して楽しく遊ぶことができるように安心できる見守りスタッフを配置し、遊具、監視カメラなどの設備を改善することを市に要望してください。</p>		民生文教 常任委員会